

残留農薬検査(平成26年度 その2)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成25年度に検査項目の見直しを行い、農産物ごとに検査項目を設定しました。

今回は、平成26年6月から7月までに食品専門監視班及び南部市場食品衛生検査所より搬入された農産物等の検査結果を報告します。

1 市内産農産物

6月に搬入されたじゃがいも(3検体)、きゅうり及びトマト(各2検体)、なす及びにんじん(各1検体)、7月に搬入されたなす(5検体)、こまつな(2検体)、にんじん(1検体)の計17検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、きゅうり、こまつな各1検体、トマト2検体及びなす3検体から計6種類8項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 国内産農産物

7月に搬入されたキャベツ、きゅうり、トマト及びレタス(各1検体)の計4検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、トマト及びレタスから計4種類5項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

3 輸入農産物

6月に搬入されたオレンジ、グレープフルーツ、パイナップル、バナナ及びレモン(各1検体)、7月に搬入されたパプリカ(1検体)の計6検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、グレープフルーツ、バナナ、パプリカ及びレモンから計5種類5項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で多く検出された農薬の概要については、3ページからの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 残留農薬検査結果

(H26年6月～H26年7月)

農産物	産地	検査検体数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出値(ppm)	基準値(ppm)
市内産農産物						
きゅうり	横浜市	2	1	シアゾファミド	0.02	0.7
こまつな	横浜市	2	1	イミダクロプリド	0.07	5
				シアゾファミド	0.04	15
じゃがいも	横浜市	3	0			
トマト	横浜市	2	1	シアゾファミド	0.02	2
			1	プロシミドン	0.20	5
なす	横浜市	6	1	アゾキシストロビン	0.02	3
			1	クロチアニジン	0.01	1
			1	クロルフェナピル	0.02	1
にんじん	横浜市	2	0			
国内産農産物						
キャベツ	群馬県	1	0			
きゅうり	山形県	1	0			
トマト	山形県	1	1	アゾキシストロビン	0.06	3
				クロルフェナピル	0.01	1
				ファモキサドン	0.10	2
				フルフェノクスロン	0.01	0.5
レタス	群馬県	1	1	フルフェノクスロン	0.01	10

表1 残留農薬検査結果(続き)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
輸入農産物						
オレンジ	アメリカ	1	0			
グレープフルーツ	アメリカ	1	1	シベルメトリン	0.02	2.0
パイナップル	フィリピン	1	0			
バナナ	フィリピン	1	1	クロルピリホス	0.04	3
パプリカ	韓国	1	1	インドキサカルブ	0.01	1
				クロチアニジン	0.01	3
レモン	アメリカ	1	1	アゾキシストロビン	0.36	10

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出限界 (ppm)	A*1	B*1	C*1	D*1	農薬名	検出限界 (ppm)	A	B	C	D
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○*2	-*2	-	-	シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*3)	0.005	○	○	○	○	シアノホス	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	ジウロン	0.01	○	○	○	-
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	○	○
アザメチホス	0.01	○	○	○	○	ジクロフェンチオン	0.01	○	○	○	○
アジンホスメチル	0.01	-	-	-	○	ジクロラン	0.01	○	-	-	-
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	ジコホール	0.01	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	シハロトリン	0.01	○	○	○	○
アニロホス	0.01	○	○	○	-	ジフェノコナゾール	0.01	○	○	-	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	○	○	シフルトリン	0.01	-	○	○	○
イプロベンホス	0.01	○	○	○	○	シフルフェナミド	0.01	○	○	-	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	シベルメトリン	0.01	-	○	○	○
インダノファン	0.01	○	○	○	-	ジメチリモール	0.01	-	-	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	ジメトモルフ	0.01	○	○	○	-
エチオン	0.01	○	○	○	○	スルプロホス	0.01	○	○	○	○
エトプロホス	0.005	○	○	○	○	ダイアジノン	0.01	○	○	○	○
エトリムホス	0.01	○	○	○	○	ダイムロン	0.01	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	-	-	○	-	チアクロプリド	0.01	○	○	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	-	-	チアメキサム	0.01	○	-	○	○
エンドリン	0.005	-	○	-	○	テトラクロルピホス	0.01	○	○	○	○
オキサジクロルメホン	0.01	○	-	-	-	テトラジホン	0.01	○	○	○	-
オキサミル	0.01	○	○	○	○	テブチウロン	0.01	○	○	○	-
オキシカルボキシ	0.01	○	○	○	○	テブフェノジド	0.01	○	○	○	○
オリザリン	0.01	○	○	○	○	テフルトリン	0.01	-	○	○	○
カズサホス	0.01	○	○	○	○	トラルコキシジム	0.01	○	○	○	○
カフェンストロール	0.01	○	○	○	○	トリコナゾール	0.01	○	○	○	-
カルバリル	0.01	○	○	○	○	トリフルムロン	0.01	○	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	-	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	ノバルロン	0.01	○	○	○	○
クロキントセット-メキシル	0.01	○	○	○	○	パラチオン	0.01	○	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	-	パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	ピフェントリン	0.01	○	○	○	○
クロリダゾン	0.01	○	○	○	○	ピラクロストロビン	0.01	○	-	-	-
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	ピラゾリネート	0.01	○	-	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	ピリフタリド	0.01	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○
クロルフェンゾン	0.01	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○
クロルフェンビンホス	0.01	○	○	○	○	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○
クロロクソン	0.01	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	-	フェノキシカルブ	0.01	○	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出限界 (ppm)	A	B	C	D	農薬名	検出限界 (ppm)	A	B	C	D
フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	-	○	○	○
フェリムゾン	0.01	○	-	-	-	ヘキサフルムロン	0.01	○	-	-	-
フェンアミドン	0.01	○	○	○	-	ヘキシチアゾクス	0.01	○	-	-	-
フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-	-	-
フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	-	○
フェントエート	0.01	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○
フェントラザミド	0.01	○	○	○	-	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
フェンバレレート	0.01	-	○	○	-	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○
フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	ペントキサゾン	0.01	○	-	-	-
フェンプロバトリン	0.01	-	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	-	○
ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	-
ブタミホス	0.01	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○
フラメピル	0.01	○	○	○	-	メタバシズチアズロン	0.01	○	○	○	○
フルシトリネート	0.01	-	○	○	-	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
フルバリネート	0.01	-	○	○	○	メビンホス	0.01	○	○	○	○
フルフェナセット	0.01	○	○	○	-	モノリニュロン	0.01	○	○	○	-
フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	ラクトフェン	0.01	○	○	-	○
フルリドン	0.01	○	○	○	○	リニュロン	0.01	○	○	○	○
プロシミドン	0.01	○	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.002	○	○	○	-
プロチオホス	0.01	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○

*1 A:こまつな、トマト、にんじん、パプリカ B:キャベツ、きゅうり、なす、レタス C:じゃがいも
D:オレンジ、グレープフルーツ、パイナップル、バナナ、レモン

*2 ○:実施、-:実施せず

*3 DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【農薬解説】

○アゾキシストロビン

『アミスター』などの商品名で販売されている殺菌剤で、多くの菌類に対し強い抗菌効果があります。
平成26年度に実施した検査において、アスパラガス(国内産)からも検出されました。

○クロチアニジン

『ダントツ』などの商品名で販売されている殺虫剤です。広範囲の害虫に対して効果があり、従来の殺虫剤に耐性があるアブラムシ等に対しても効果があります。

平成26年度に実施した検査において、トマト(市内産)やほうれんそう(国内産)からも検出されました。

○クロルフェナピル

『コテツ』などの商品名で販売されている殺虫剤です。多くの野菜に適用があり、従来の殺虫剤に耐性がある害虫に対しても効果があります。

○シアゾファミド

『ランマン』などの商品名で販売されている殺菌剤です。特にべと病や根こぶ病などに対して効果があります。

○フルフェノクスロン

『カスケード』などの商品名で販売されている殺虫剤で、広範囲の害虫に対して効果があります。
平成26年度に実施した検査において、ほうれんそう(国内産)からも検出されました。

※参考文献

・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2011年版